

子どもたちにお面作りのコツを教える芝高の生徒＝1日、池田町の「ソリービクニックアドベンチャーいけだ」



## お面作りで町活性化

都内高校生 池田で体験会企画

池田町の地域資源を生かした商品開発やPRに  
取り組んでいる都立芝高の3年生が1日、同町志津原の体験施設「ソリービクニックアドベンチャーいけだ(TPA)」でお面作り体験会を開いた。町に伝わる能楽文化をアピールし、地域の活性化に汗を流した。

開いた。昨年度から町の特徴を調べ、昨夏菜町して構想を膨らませたアイデア10余りのうち、杉本博文町長らの意見も参考に「お面作り」に決めた。同町で奉納される国の重要無形民俗文化財「水海の田楽能舞」や、能面の全国公募展から着想を得たという。

来場者の多いTPAの一角にテントを設け、紙製のお面の色塗り、粘土

を使ったお面作りなど3つのメニューを提供。森林資源が豊富な同町らしいPRするため、おがくずをリサイクルした粘土も使った。生徒たちは家族連れらにやり方を説明し、会話しながら制作を見守っていた。

実習生の一人、大塚裕香さんは「楽しんでもらえて良かった。お面が割れたりひびが入ったりしないよう改良したい」と話していた。実習は2泊3日の日程で、最終の2日は杉本町長や観光協会担当者に体験会の成果をプレゼンする。

同校は池田町の風土や暮らしから実践的な学びを得ようと、2016年冬に「いけだキャンパス」事業の協定を町と締結した。

(中塚佑香)